

開催報告

第9回 福祉助け合い活動交流会 オープン・ザ・ドア

～孤独死に到らないために～

進む高齢化と、単身世帯の増加により、最期を一人で迎える可能性も少なくありません。それを孤独死や孤立死としないために、最期まで人と関わり、家の扉も心の扉もオープンにしていくにはどうするか。講演と実践報告・ワークショップで考えあいました。

多くの生協から男性も含めて大勢の参加があり、このテーマの関心の高さがうかがえました。

開催日 2014年1月29日(水)
10:30～15:00

会場 東京都生協連会館 3階

講師 吉田 太一氏(遺品整理業キーパーズ社長)

参加者 147名(9生協、2社協、事務局)

主催 東京都生協連・福祉助け合い活動連絡会

タイムスケジュール

10:30	開会 挨拶
10:40	講演「遺品整理の現場から学ぶ」
12:20	昼食休憩
13:00	実践報告
13:40	ワークショップ
15:00	閉会



開会挨拶
東京都生協連
竹内専務

これから総人口の減少の中で65才以上の高齢者が特に大都市圏で急増し、一挙に高齢化が進んでいく。今後様々な課題を乗り切っていくためにはならない。認知症や要介護者も増え、低所得者も増加する中で生協でも福祉のまちづくりや見守りなど始めてきている。これからも協力し合って進めていきたい。



司会
廣瀬志津代さん
パルシステム東京理事



吉田太一さん

講演

「遺品整理の現場から学ぶ」～最期まで孤立しないために～ (途中で孤立死をテーマにしたDVD視聴)

誰でも一人で死んでいく可能性がある。家族や友人がいてもタイミングが悪ければ発見も遅れる。しかし今は、いつでも一人で、亡くなっても気づかれないような状況の人がかなりいる。大切に使われていたものたちをゴミとせず遺品として扱いたいとこの事業を始めたが、遺品整理業をしているとその部屋の状態からその人の生きざまが見えてくる。それは自分たちがどう生きれば良いかを教えてくれる。死ぬために生きているのではない。どう生きるかを考えていかなければいけないと思う。

孤立死を防ぐ取り組みは社会でも色々行われているが、人は自分の先に何が待っているかわからないのでなかなか生き方を変えられない。先に起こることがわかれば避けようとする。こんな風にはなりたくないという思いが生き方を変えていく。DVDを見てショックを受けてもらいたい。本人の意識を変えることが一番である。

一人で暮らしているといろんなことについて「元に戻す」という作業を怠ってしまう。それが部屋の中や人間関係に現れてくる。世の中は継続のためのバランスを保っているが、そのバランスが崩れると暮らしも崩れていく。そしていつ死んでもだれにも気付いてもらえなくなる。自由な世の中は煩わしい人間関係からも自由でいられるが、結婚もせず身内のいない生活は、何をしてもかまわないという歯止めのきかないものになっていく。今は若いうちから孤立している子たちが多い。私たちは若者に人間関係の大切さを教え示していかなければならない。そのためには自分も孤立などしてはならないはずである。

男女差でみるとやはり男性が孤立しがちの傾向がある。一人で暮らしはじめたら、家族からの声かけにはぜひ応えてほしい。身近な人、ご近所の人を大切にして、気軽に声をかけてもらえる人を作っておく。近所に自分を認識してもらうことが大切。そのためにも健康で動けるうちにそういう関係を築いていけるようにしてほしい。

事前予約したいという電話が増え、それを断っていたが今は全国を回ってそれらの方たちにお話を聞くようになった。電話や訪問から見てきたことは自殺願望の多さやマイナス思考、そして誰かと話したいという思いだった。孤立死しないことはよく生きること。死ぬことを考えるのではなく、自分であとどのくらい生きるかを決めて、距離(時間)と燃料(資産)を考え、その範囲でやりたいことをやってみてほしい。そこから人とのつながりもできるかもしれない。今日の話を実践して生きることのヒントにしてもらえたらありがたいと思う。

実践報告



◇親父の居場所づくり◇

パルシステム東京 松本 守史さん

2012年度から立川センターと青梅センターのある多摩西風エリアで親父の居場所づくりに取り組んだ。第1弾、2弾は父子企画として行い、子どもと一緒に出てきてもらい、ハイキングやうどん作りを通して父親同士のつながりも生まれた。第3弾で初めて親父企画として農作業体験を行い、援農企画としても成功した。この3回を足掛かりとして、つながった親父同士が始める「何か」をセンターが後押しすることができればと思い、2013年度も農作業企画を行っている。広報や雰囲気作りにまだ工夫は必要だが、このような企画を通してこれからも親父の居場所づくりに取り組んでいきたい。



◇見守り活動◇

福祉のまちづくり 森 美紗子さん

東京の生協では「ひとりぼっちにしないまちづくり」をキーワードに福祉のまちづくりに取り組んできた。生協の枠を超えて協同で取り組み、杉並区、北区、練馬区をモデル地区として、生協の普段の業務の中で行い、行政が実施している見守りに参加して行う「ゆるやかな見守り」とし、業務中に気づいた「気がかりなこと」を報告する形をとっている。協力機関登録証として見守りステッカーを配達車両や医療生協の介護事業所の自転車につけて認識してもらい、職員は認知症サポーター養成講座も受講している。普段の様子のわかるいつも行く担当者による気づきを大切にして、これからもモデル地区以外での取り組みも進め、行政や社協と連携して相互に活動の可能性を広げていきたい。

◇のびのび3Q体操の取組み◇

東京都生協連と「福祉のまちづくり・杉並」は体操を通して、自発的に人が集まれる場づくりの実践をとして「のびのび3Q体操」を作り、DVDも作成した。マスター講座では修了証も発行し、各地で体操を広げる活動を行っている。

コープみらいでもあちこちのコープ会でこの体操に取り組み、試食を取り入れたり、子育てママを対象を



コープみらい
手島 俊子さん
渡辺 敢さん

絞ったりと工夫している。この体操は若い層から年配まで取り組め、各自でコントロールもでき、静かに行えることも魅力になっている。これからもこれをツールにしてみんなが集まる場を作っていきたいと思う。



ファシリテーター
コープみらい
吉田真由美さん

ワークショップ

ワークショップでは2つのテーマについて、それぞれ紙に書いてグループごとに話し合いました。吉田さんも会場を回って話し合いに参加してくださいました。その後3グループから話し合いの様子を発表してもらい、最後に吉田さんからまとめの言葉をいただきました。

テーマ：講演を聞いての感想。印象に残ったこと

- ・自分で人生のゴールを決めて、それまで充実して生きる
- ・「すべてのことを元にもどす」、片付けの大切さ
- ・近所づきあいを大切にする
- ・50代での孤立死の多さ
- ・若年層の孤立化
- ・未婚者の増加
- ・高齢者が若い人を助けるという視点



テーマ：孤立しないためにあなたができること。生協ができること

- ・いろんなつながりをもう一度見直す
- ・思い切ったお節介をしていく
- ・近所に友人・知人をつくる
- ・多様な人間関係を持つ
- ・町内会活動に参加する
- ・身内を大切にする
- ・サロンづくりやサロンへの参加
- ・宅配などでの声かけ
- ・生協での見守り、居場所づくり
- ・多様な場作り、サロン、男性向け企画

吉田さんより

いろんな企業が行政等とつながり、限定した部分でよいから福祉を担える。生協はその中間にいて発信していけるはず。孤立した人が依存するのではなく、自立した人が共存していけるようになればよい。現実を受け入れて自分なりの充実した日々を送れるように努力してほしい。



アンケート まとめ

97枚のアンケートが提出され、多くの感想等をいただきました。講演を聞いての感想では、自分でゴールを決めるということに多くの共感が寄せられ、若年層の孤立化の話には驚きと危惧を持たれた方が多かったようです。また、自分や家族の身に重ねられた方も多く、どう生きてどう死ぬか考えさせられたとのことでした。遺品整理への関心も高かったようです。

実践報告については居場所作りや見守りなど生協の活動への期待と関心が寄せられました。

ワークショップに対しては、さまざまな生協の立場から意見交換できて良かった等の声が多くあり、各グループともにとっても熱く話し合いがなされ盛り上がっていたのが印象的でした。吉田さんも最後まで参加してください、グループも回ってアドバイスやお話をくださったことありがとうございました。

この会がそれぞれの生き方や生協の活動を考えるきっかけやヒントになったことがうかがえました。